



れいめい中学校

IB HANDBOOK

～国際バカロレア ハンドブック～



もくじ

1	れいめい中学校が育てる生徒像	3
2	^{こくさい} 国際バカロレアってなに？	4
3	IB の ^{がくしゅうしゃぞう} 学習者像	5
4	ATL スキル	7
5	学習について	9
i	学習内容	9
ii	^{がいねん} 概念	10
iii	グローバルな ^{ぶんみやく} 文脈	12
iv	^{たんきゅう} 探究テーマ	13
v	^{そうかつてきひょうかかだい} 総括的評価課題	14
6	CP(コミュニティープロジェクト)	16
7	^{がくもんてきせいじつせい} 学問的誠実性	17

1. れいめい中学校が育てる生徒像

れいめい中学校では

- ・ やわらかな発想でしなやかに学び、成長し続け、新しい価値や人生を創る
- ・ あふれる思いやりで対話・協働し、人々の困りごとを解消し、笑顔を作る
- ・ 輝ける希望を持ち続け、努力し、地域や社会の黎明(夜明け)を実現する
- ・ さわやかなあいさつと美しい礼儀作法で、敬意をもって良好な関係を築く
- ・ 広やかな心で、世界の多様な価値や正しさを受容・共感し、人間を愛する

生徒を育てることを目指しています。



こくさい 2. 国際バカロレアってなに？

国際バカロレアでは、グローバル化に対応できるスキルを身につけた人材を育成するために、

P Y P / 3～12歳 (1997年～)

M Y P / 11～16歳 (1994年～)

D P / 16～19歳 (1968年～)

I B C P / 16～19歳 (2012年～)

の4つのプログラムを提供しています。

それぞれのプログラムの中心的な願いは、児童生徒が自身のまわりの世界のもつ複雑性を理解し、未来のために責任のある行動をとるために必要なスキルと性質を身につけられるような教育を提供するということです。

国際バカロレア(IB)は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心を持って生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

3. IB の学習者像

IB のプログラムでは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。

IB の目指すひとってどんな人？
私たちはどんな人になったらいいのかな？



私たちは IB の学習者として、次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するためのスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意を持って学び、学ぶ喜びを生涯を通じて持ち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を研究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、それらを評価し、その経験を糧に成長しようと努力します。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実性に対し熟慮と強い意思をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に、機知に富んだ方法で忍耐強く取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

4. ATL スキル

IB の学習者像を身につけるにはどうしたらいいだろうか？



みなさんは、ATL スキル(Approach To Learning)を用いて、カリキュラム全体に関するスキルを発達させていきますが、これは学び方を学ぶのに役立ちます。

ATL スキルを身につけることは、10の学習者像に近づく手がかりになります。

コミュニケーションスキル

1. コミュニケーションスキル

- ・お互いのやりとりを通して考えやメッセージ、情報を効果的にやりとりする。
- ・やりとりするために、言語を読み、書き、そして使用する。

社会性スキル

2. 協働スキル

- ・周りの人と協力して取り組む。

自己管理スキル

3. 管理・調整スキル

- ・時間や課題をうまく整理整頓する。

4. 情動スキル

- ・自分の気持ちを管理する。

5. 振り返りスキル

- ・これまでの学習方法を見直し、より良くする。

リサーチスキル

6. 情報リテラシースキル

- ・自分自身でデータや情報を見つけ、使用する。

7. メディアリテラシースキル

- ・さまざまな資料やメディア(インターネットなどの情報も含む)から情報を見つけ、整理し、分析して、使用する。

思考スキル

8. 批判的思考スキル

クリティカルシンキング

- ・論点や考えを分析し、評価する

9. 創造的思考スキル

- ・今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を調べたり考えたりする

10. 転移スキル

- ・スキルと知識を様々な場面で応用する。

5. 学習について

i 学習内容



IB の授業って具体的にどんなことするのか？

MYP では、大きく分けて 8 教科の授業を行います。

言語と文学（国語）

個人と社会（社会）

数学（数学）

理科（理科）

言語の習得（英語）

保健体育（保健体育）

芸術（音楽・美術）

デザイン（技術家庭）

IBU（学際的単元）

1つの単元(ユニット)を2つ以上の教科や学習分野の知識や考えを組み合わせ、新たな知識を手に入れています。

これらの授業で学び方を学びますが、学んで終わりではありません。

それぞれの授業で学んだことや概念を実社会と結び付けて、社会に対して行動することが目標です。そのため、上の教科に加えて次の学びがあります。

SA（Service as Action）

「コミュニティと奉仕活動」に焦点を当て、家庭や学校、地域などのコミュニティのニーズを認識して、授業での学びや、概念を応用して、それらのニーズに実際に取り組んでいきます。そして2年生の2学期ごろからCPという活動へうつっていきます。

（詳しくは16ページへ）

ii がいねん 概念



IB の授業ってどんな感じなのかな？

先生たちが作る各単元プランナー(計画書)には、『概念』、『グローバルな文脈』、『探究テーマ』、『探究の問い』、『教科の目標』、『総括的評価課題』、『ATL スキル』が書かれており、授業ではそのプランナーに沿って授業を展開していきます。

その中の1つに『概念』があります。MYP では16の『じゅうようがいねん重要概念』があり、教科の授業を通して概念を学んでいきます。

重要概念

美しさ	変化	コミュニケーション	コミュニティー
つながり	創造性	文化	発展
形式	グローバルな相互作用	アイデンティティー	論理
ものの見方	関係性	システム	時間、場所、空間

そして、概念にはもう1つ、『^{かんれんがいねん}関連概念』があります。これは各ユニットで2～3つ用います。

関連概念は各教科で指定されたものを使用します。関連概念を特定することによって、学習の幅を広げ、深い理解につながります。

例えば…

社会の授業で平安時代について学ぶとすると、そこでは文化や活躍した人物、出来事など知識として様々なことを覚えると思いますが、例えば、ここで「被服」という概念レンズを通して平安時代を見てみましょう。貴族が着ていた十二単や小袿、庶民では小袖や小袴という被服から、当時の人たちの暮らしや身分制度が見えてくると思います。では、時代を変えて現在主流となっている洋服や、場所を変えて、韓国のチマチョゴリやイスラム圏で使われているヒジャブも同時にみてみましょう。これら時間も場所も異なる被服ですが、「共通点は何だろう？」、「どのような価値観でこれらの被服が作られたのだろう？」など、1つの被服だけでは見えてこなかった考えや疑問が浮かんできたのではないのでしょうか。時間や場所を越えて、学びの引き出しを開けるための鍵となるのが「概念」です。そして、我々の実生活と結びつけて、「制服はなぜできたのだろうか？」、「学校にも制服があるが本当に必要なのだろうか？」など広い視野で考えることにより、学びが広がっていきます。

iii グローバルな文脈^{ぶんみやく}

前のページで説明した「概念」は、すべてに当てはまるものであるため、学習する際は具体的な場面やできごとに当てはめる必要があります。そのために必要なのが「文脈」です。

そして I B は世界規模でものごとについて考えているので、「グローバルな文脈」として、6 つ定められています。

グローバルな文脈

- ・ アイデンティティーと関係性
- ・ 空間的・時間的位置づけ
- ・ 個人的表現と文化的表現
- ・ 科学技術の革新
- ・ グローバル化と持続可能性
- ・ 公平性と発展



iv ^{たんきゅう} 探究テーマ

みなさんは、『探究テーマ』に沿った学習を行いながら、教科の学習内容も身につけていきます。1つのユニットについて、1つの『重要概念』、1つ以上の『関連概念』、『グローバルな文脈』を組み合わせ、みなさんが理解できるようなテーマに結び付けることによって、ユニットの探究テーマを作ります。

これまでの例として

形式を知り、受け手に伝えることでコミュニケーションを成立させることができる。【言語の習得】

あらゆるものの見方(視点)から仲間とコミュニケーションを図る中で、効果的に空間的・時間的位置づけを活用した戦略を生み出す。【保健体育】

これを見ると、「難しいな」、「どういうことだろう」と思うかもしれません。

授業は、具体的な場面やできごとに当てはめながら概念を学び、そして学びを深めています。

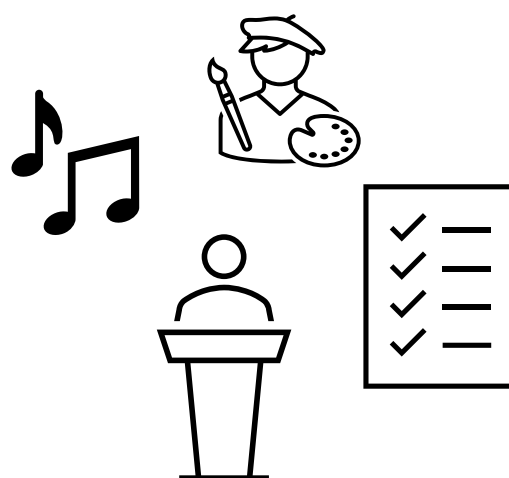
そうかつてきひょうかか だい
v 総括的評価課題

各単元(ユニット)が終わる前には、総括的評価課題があります。課題の形式は、テストや、レポート、ポスター作製、スピーチ、実演などさまざまです。教員は、I Bの評価に基づいて、みなさんの到達度を点数化します。それぞれの教科、規準A～Dまであり、各規準8点満点で成績が出されます。

各教科の規準表

言語と文学	
規準 A： 分析	規準 B： 構成
規準 C： 創作	規準 D： 言語の使用
個人と社会	
規準 A： 知識と理解	規準 B： 調査探究
規準 C： コミュニケーション	規準 D： 批判的思考
数学	
規準 A： 知識と理解	規準 B： パターンの研究
規準 C： コミュニケーション	規準 D： 実生活への数学の応用
理科	
規準 A： 知識と理解	規準 B： 探究と計画
規準 C： 処理と評価	規準 D： 科学的影響の振り返り
言語の取得	
規準 A： 聞くこと	規準 B： 読むこと
規準 C： 話すこと	規準 D： 書くこと
保健体育	
規準 A： 知識と理解	規準 B： パフォーマンスの計画
規準 C： 応用と実践	規準 D： パフォーマンスの振り返りと改善

芸術	
規準 A： 調査	規準 B： 発展
規準 C： 創作・実演	規準 D： 評価
デザイン	
規準 A： 探究と分析	規準 B： アイデアの発展
規準 C： ソリューションの製作	規準 D： 評価



6. CP(コミュニティープロジェクト)

1年生～2年生2学期ごろまで、S A (Service as Action)の活動があります。

昨年度は、

1 学 期・・・「家庭の困りごと」

2・3学期・・・「学校の困りごと」 の解決に向けて活動しました。

2年生2学期ごろまでS Aの活動をした後、3年間のすべての学びの集大成であるC Pの活動に入ります。この活動はS Aの延長線にあり、「コミュニティーと奉仕活動」に焦点を当て、地域コミュニティーに対する奉仕活動を行います。この活動は個人あるいは3人までのグループで行います。地域コミュニティーのニーズを探し、そのニーズの解決に向けて実際に行動に移していきます。

普段住んでいる町、そしてれいめい中学校がある薩摩川内市で問題となっていることは何だろう、と通学途中、周りを見回してみてください。きっといろいろな発見が待っていますよ。

7. 学問的誠実性

学問的誠実性は、IBプログラムのすべての学校、教師、生徒の義務であり、多くのルールが存在します。

MYPの生徒は、課題に取り組む際に必要な引用の仕方や、出典の明記の仕方、知的財産権や著作権などについて学びます。

学問的誠実性は、IBプログラムを行なっている学校の生徒がみんな、平等・公平に評価を受けるためにあります。評価対象となるすべての課題は、みなさん自身の言葉、表現、アイデアを全体的に用いたものであるべきです。他者のアイデアや作品をみなさんが自分の作品に用いるときは、アイデアや作品の出典元について十分に、適切に出典をつける必要があります。

評価対象となる課題に取り組む際に、この学問的誠実性に反してしまった場合の対応について詳しくは、『学問的誠実性に関する方針』に記載してあります。